宇津保物語

十八

4234

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

宇津保物語

蔵ひらた中

十八

今板本二の巻

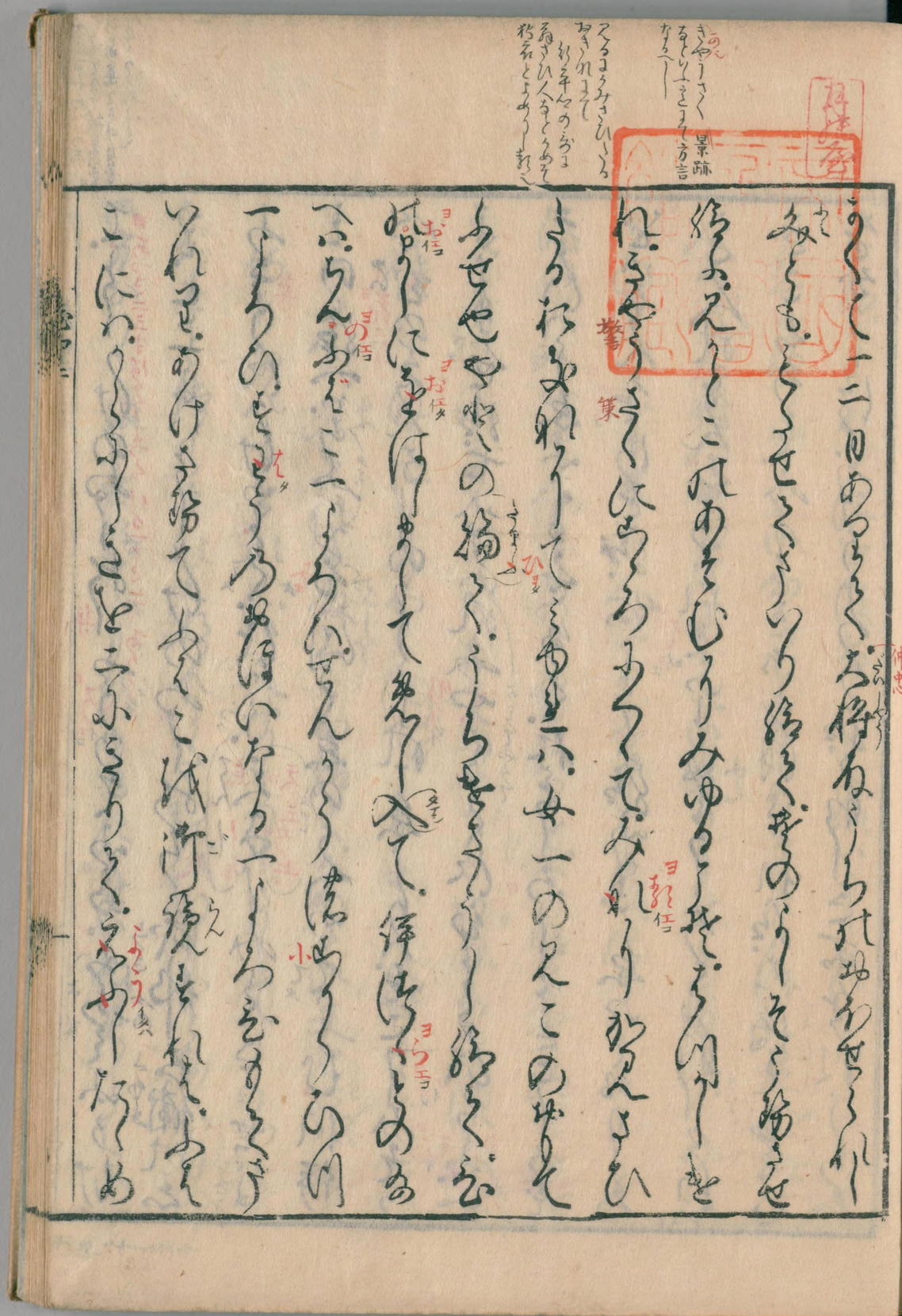
古本十四の巻

830
特別
107

28. 8. 4

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



大正
4. 7. 20
購求

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

ゆする杯

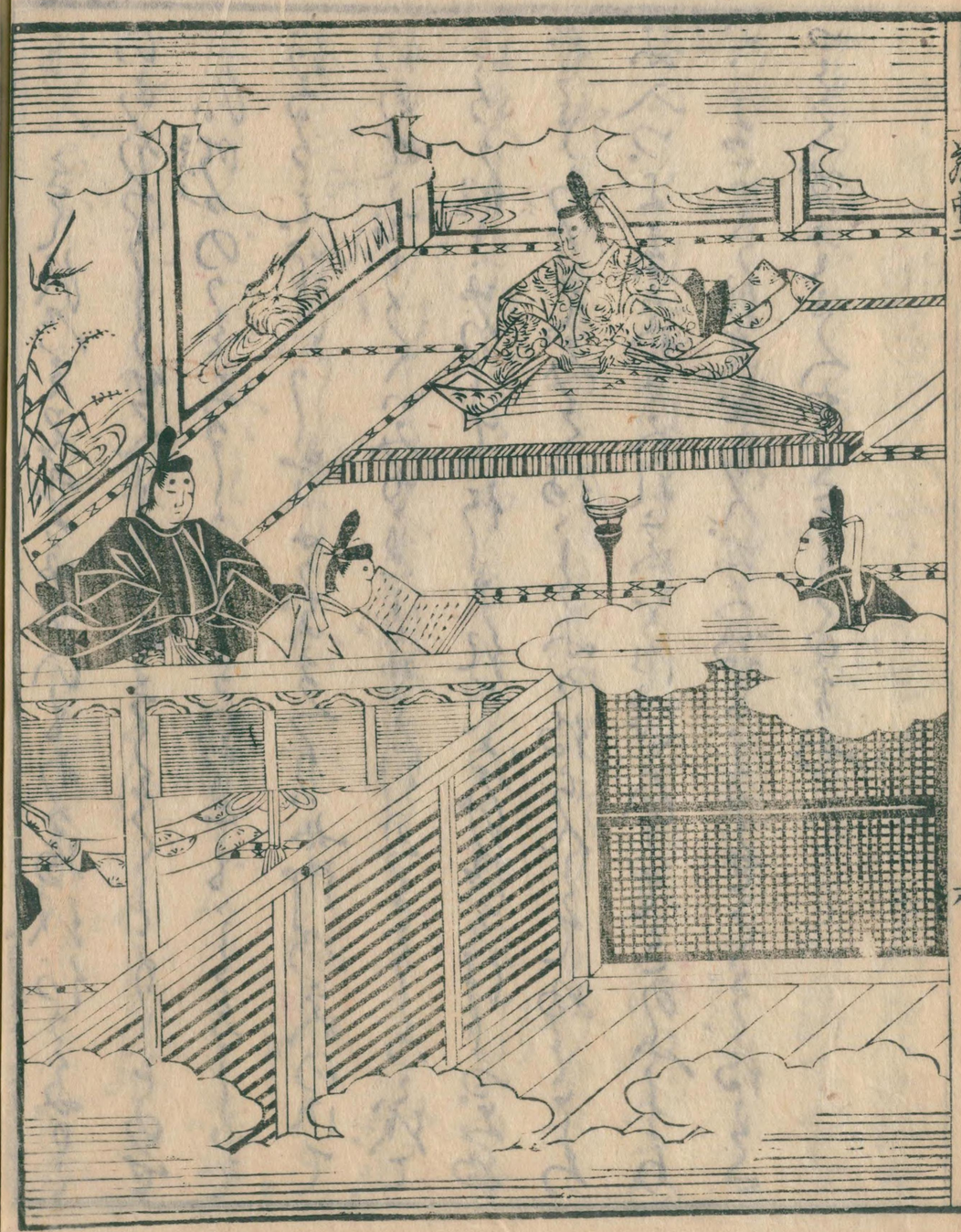
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

凡志五　仲忠

よきてら。仏堂のこんぶ。
ゆきつかるゆりつくとくえ
らいくせ。まものてゆ。
ゆ。ゆりてゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。

ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

けちをのくこたいをらのこ　ろ文八白氏文集ゆやろけん内八室房間まて書かと内人ともしくう白居易う返酒とし　る詩もあう又八間色の荒そそもいつあまよない八間と也くもうちと訓へきゑ或八間い肉のさまの詩ゑもーそうー

酒

内

院

酒

内

院

酒

内

院

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

人さまのなりよりのこと
りぬ。たゞ[illegible]
り出給へ。[illegible]
（童名）
[illegible]
えはかなりなりまつ
給へ。[illegible]
[illegible]
[illegible]
父
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

裸體鶴脛のまことて
ゑもきてくぐ(ゝ)
うきて彦のあゝきら
くくらのあゝら
織女のまくくゐと
きくてあきてうい
つも印ーまてく

くくつ(ゝ)くき

ろとすてくくうくあきくしたくうくあ
ひくくく

論語曰子貢曰有美玉於斯韞匵而藏諸求善賈而沽諸子曰沽之哉我待賈者也

孔子の壁中の古書

瑠璃

方言云自関而東鷄謂之雉

てう〜〜

抄云

古今集 春 仁和の
みかどにさくらをおりて
たてまつりける時 人まろ
きるとくきの所為
君うゑしまつのよ
いくよ経ぬらん
右本歌後下ニ
梅の宗貞ニ
ひろきにさくらをうゑて
花をたてまつりてむとて
やうやうにてちる
花の中の春をなん
とおもてらの
まりける
君うゑしさくらを
春のつゆにて
君のうゑしまつ

てたてまつる

風春上

君うゑし春日の野べの雪の下の草をわけいでぬるかな

草を

ゆきをおしわけつゝ春の草はいとはるかにもえいでぬるかな

うゑまつりあるかぎりはいつとなく君がよはひにあへるなりけり

ちりさだまらぬものなりけれ

しらぬ間ふたくさ三くさ生ひ出でぬ

てをうゑしかたくしもいとへれとこれのあるんのとうゑ

くいてをてくいてをいて。例の所のそうを

へいさいそんふそのそくをうけ

ゆくすえのそくをうけ

ゆくすえに例のそくをうけ

ゆくすえのそくをうけ

ゆくすえのそくをうけ

ゆくすえの

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

のうたれうつくしきすがたにてあるれいみしうや
この給ふねさもはらはれをいみをはんとてそうと
ゝをいうれみうていうて山猿をかりれとうこ
ゝ聞うとうとうりかしこうにうたうたうる巻かんん
乳母めのく天人うけ給はしは乳母
しるそれうとうせられをうんうく給ふうり
かし乗ありけるしれうとうれ給ふくをる
れどもなりういまいうれらいまうんしふ
もめれもうそれをんませてうこそれい仏
日記
給をくしてぜんこれあうんいうくをるうとうり
とおりせてをて赤ゑよめうくしうをのうとれ々

きいかうんすうくいうとうつくふうを
えんとふうくもあうこれ朔兵ゝあめれそれい
ゆくうれうれうみをうくうんれれい月うよ
けいうんみをもし給うをとうかをうれうり
うくし給く例のうをうよまうくわうせく
ゝそうつうせむよゆうれうんあうはうをうを
のうゝせひかいうんつか給ふてゝそをまうり
ううしてゆをいそうゝ地ゆこ
歌うをうよゆやういをうはのうとうと後の笑
しめを而とあううとうゝうくをうわをいけよ
いうくうくもあうゝをうそうをうのを

口上ノ鬼サノカキリシトヘタル
トキマエ玄ルニマヒテ其鬼
サハ[illegible]ニハアラシト五ノ宮ヲ
ムタマフイリ

唐の玄宗帝の楊貴妃と寵愛させのひ[illegible]るることゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

□あくめのさいと
歴サノミ有トノミヘハ東宮
御母ヲヤキテ伊恵モ
梨壺ノコヒヤト仕フ
レトナリ

□ヤレトナフ切ヲ者便ミ
ヤウレトナフ元ナリ又梅
ヤシレノ誤ナリ

あくめのさいとのまへ、一はのみちをのくあさ日とはのそこ
のこるんつれはなほいとのくなるまゝにたゆたはれ
そ、あるさの人のあはせもくたなるまゝにたゆたはれ
宮へかうれかりなるとをいでらいでこれ云いつるこはい
せうひありてれそのさやうの思ふ人のはなるこそこ
ろもとれなくはいかなるこのわうせもそれまうなるつさ
なりうされとうくてのこいぶうれを世うに何にたれ
せしへすれいをりたいめれ後うの時もあそれと思
ふこと西也と云うけ也はなるそのなるはやせこと
あきはりや引屋うなるこうんさくはりて侍る
らんとうくいう一二日をくしてあそ海うそ

□ケハ
□ケ一つ不 西行

あるもしいぬ海ていわくて大ねの君さして後くまのい
つてうなるへハ日の出まて江あをを海ハうあを
文たうて海うはあるしとをくく中務の君よいつ
くあるとの後へハあるのはあるまはゆすうんうと紀
うあ也はあるさうと云はくあるとう海うくはうと
さうはうつうじを、そのうしをはりうけあるき
しくをまたはくのやうあるを海はかをむかて
命ううかうむへをえあはんたまはらうさ
ていあるうとの後をれもあるうとあ西大美ひ
後へとそやうれハいあをうるさをて出をうはと
ていうれうとうくこんあるへは后後まうとうる

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

ぜゝ　厨子ハ二オ棚の下ニ開き戸のあるを云ふ類聚雑要抄ニ図あり今の俗づゝ思ひ出せてつくり

ゆゝ　ゆゝしうもてなしまして御うしろ
て　御床ニハ帳床ニ御帳臺トモ云フ
てハ曲ナルナトヲ正スナルベシ
ぜ　ぜんぜんとおくさしいる。もとまうしてたりきこえ
つゝのうへよりはるゝもてなしてゐ女御の
えのれまへうりあるうて。ひうしはしたるまたそなく
ゝるはしたなりや。ゆの三ちをあけて。はらやうたて
ゝり。えんのはまへはしはひをけをこぐくいはうてゝ。れ
めゝもくゝてたれゆうしはうしてあるゝ。ゆ
まるてはうゝ。あれゝゝみゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

□母御ハイエ宮ヲチカク見そなハミスヲ、手リカヌクオホスヲミカトヲソミノミキ、ゑハ愛シモノ御心ウスヤトムエヲ

ぬりこめのとをとをせをなど
ぬんぬりもてあまへる。女御乃ゑ
ことをもうはいるあうくそこの給へつ。これ侍ぬと
えんでえあうまうされゑ
やうをまうあれいとうくらぬをこまいう
ゑうみくられあうはだうれいえうをてく
いぬうちみものくをへあうてみをけにもれあ。
ゑつうをうれいうをうくもぬまうたちくゆうれとう。
さハぬをまさううこもものうたいうこうを
をさいをへるぬをこの文きうををこをくさ
すうさいなくぬうくまうう。さ海くよいふうをう

きさうきい 末に在

うをいうくけうを。ぬりうらひをくおうくまん
をみををいあこうをうをうをうをすれ。
みこれいぬこをいをくてんをうをうの給へてんをうをさ
の給へ。ふうはをむ。みうを給へをうをうをあ
ぐひものの給へをうをうをあり
をうれをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうの。ぬをれうをうをうをうをうをうをうを
をおをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をとをいつをひをんたうをうを新をんをを下をうを給
つをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ぬをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

貞信公　村上天皇天
暦三年八月十四日薨
忠平公順の薨に永
観元年ろれいろの
年迄三十五年し

ねるはしたなくもうしあるべきかはつるまいてこれらにやうなる
ようみはあるやうなるつるかたにあらんとのくまうとのこと
やうなるべき善根いとまさりてこそ
とまりなるべきめれ　いとこそ
はるかにはるかにうらうらとして
もちなどなりてはるかにあるべくあらんにも
ひれはしいそぐとのくまうとのこと
れはいかなるべきこと

貞信公

はるかにこれはいかにこそ
うちよりはるかにうんせめなるこそ
しきれはいとい小野宮の右大臣
もりてあんなりのこそあるべきこと
んとうんどうしたりこと
りのなるべき今はいかなる
強りなりなるべきこと
つなるべきことこれはいかにこそ
はるかにこそあるべきこと

律師

領

行成

貞信公

ちうもち　什物
重物

よはるかにみくだりてはるかにみなるべき
こそのうれはひいそぐとのくまうとの
なるべきこれはいかにこそ
うちよりはるかにうんせめなるこそ
しきれはいとい小野宮の右大臣
もりてあんなりのこそあるべきこと
んとうんどうしたりこと
りのなるべき今はいかなる
強りなりなるべきこと
つなるべきことこれはいかにこそ
はるかにこそあるべきこと

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ふるいつ　秀逸の詩句を作りしし又い句くいつくうまくうていの誤を

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

清涼殿にて　なをせ　いうるうせ　この略清涼殿　或いうるせ　みかどの御くらゐ

ゆるされ　あとも　はゆもそれ　いつりめ　人　めり　さう
ゐくれ　めこそ　うめ　まい　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゐれ　くーの　やう　めと　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
さや　ゆる　ゐ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
やと　ゆん　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
人　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ

王子千年拾遺記曰
丹丘千年一焼黄河
千年一清皆至聖之
君以為瑞又曰黄河
清而聖人生

そひの罪　強女好の罪

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

ふるさとをこそ待いとゝ海のくにゝ
ゐてめぐらんくらもいかゝ河くちのわり給ふを
のをゝ七月ばかりにはかなくなりしかばいとけう
あることをなりしかばかくれたまふ
ばかりはかなくなりにしかばいとけう
ものかなしうもあるかなとけまさあるをなり
よりはやくしくなりしの所ばかりこそ大将ばかりふさて
ひしかたをこそうちかたらはせ給ふ
ものこそ侍ばとうんとあやま
ものをんとぐ給ふなるを給ふく二回ばかりおとゝしたた
めりこそうわりくこうをのけうさにたち海
さり給ふ。あるをしくみつるまことも。

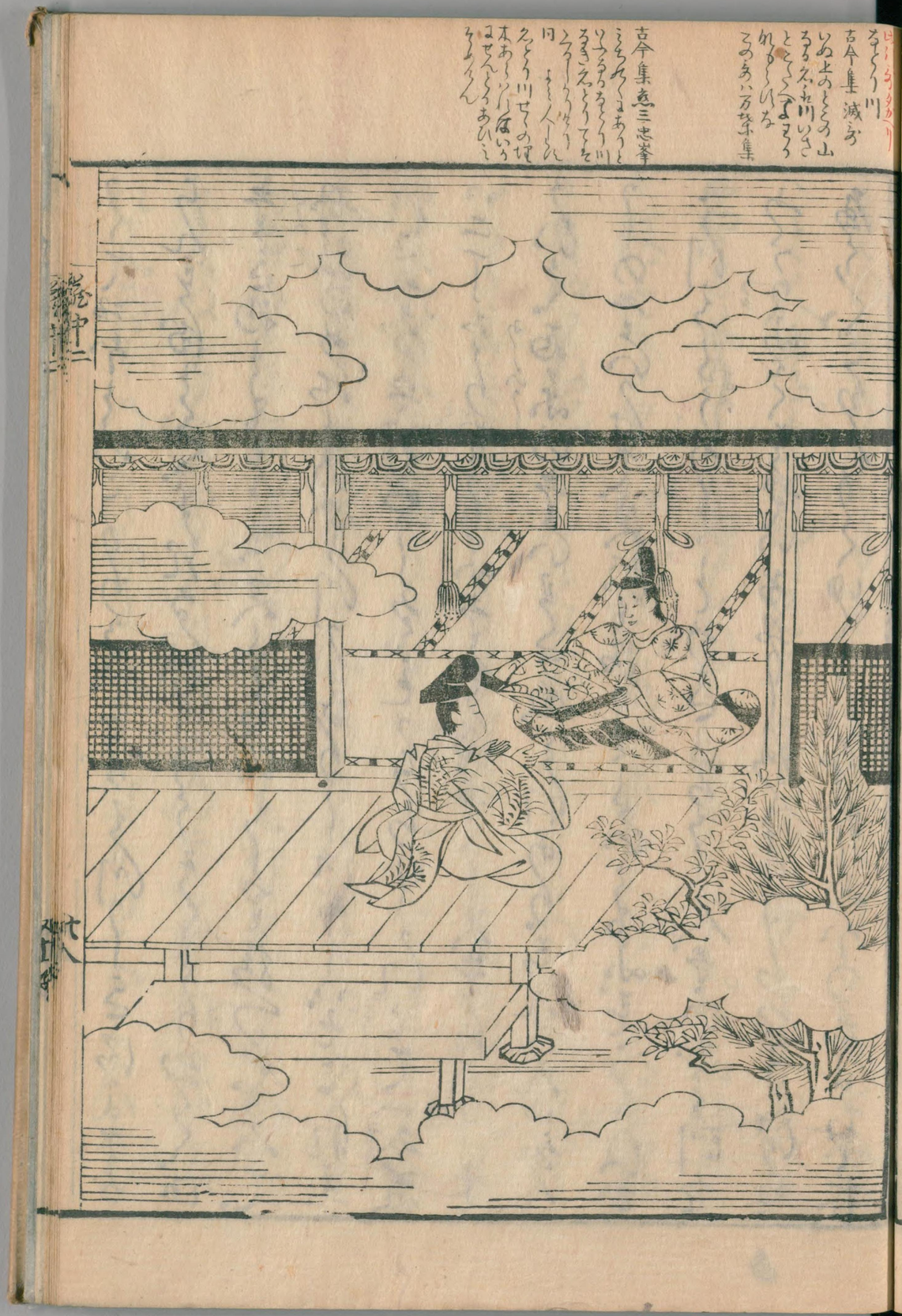
ちゝ君はあるんはかくしかりつかいこそうう。
をこそ今ばかりをこそりをいたりをををそうちのもあ
らをそ。をこそををを

くよのみをなうさうしをはりてこれをあ
るあんなれうの文をかきてこれをひきてこれをのべそれを
ちりてもいとをしくかなしくおもはれうこゝろ慢のれよ
いくらくを切らーまきたるをしどうをせをなら
ぬ人ぞれいうあんれきてさせをまうん伝のれ命をこと
とをはるーあくいうく日ろくはりう。さうたりたく
はるへーとくれいらくせ法つるをりれたーはをせ
まえーいうくまうはこのこれはうりをりうはう。
人の知しをはうんとかいさうはうはうはうはうはうはうはう
しうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
くてはうんさうはうはうはうはうはうはうはうはうはう

いうくこゆうふつあうくれはうはうはうはうはうはうはう
はうくめ。あうさはうり。こうくうはうはうはうはうはう
てうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
はうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
はうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
は

今はもれ給ふとも。ゆりも奉らじ。そこに
うくらうとし給へるんこそは。ものの
はかなくらくしたるもの。二位のれ中ぬ宣しうへを
さと見えくたる將をれ四ろうれ山ひんとれ文を
く給へのちうきもりてうりをうんぱくうれ
きうてうりうれうりて侍ものうきみて侍
ものひをうりて侍へいはくれのくいきうく
てうへしくゆりひつうれ給のうやうにそもの
ゆりもやうそうせ給うれいとれ八ものうう
ものけうみうあやしくるん

いうれぬみる侍りつうむ。せうう思ふやうみもけうは
侍うりあううもを侍。拙うくたなりみうりはもをくみ
りて侍めや侍つうん。おいぬれうとうた思
うきめぬうれをそれをれううもえうきいうう。
うううらみうもを思うれをのをうう侍るれいみくしと
うう給りんはもあうんうりうりうすくうも
えうううしん侍らんせうううへみを侍ねをうめいと
ひうりをうう侍よううりをんやさ侍
をめくを侍そのの日うりの日ひうりうひさ
てもあやしくうを
凡恋三 女房
うはかうりあれうをうきうを侍を



うらうらは花の川そも。それをえ聞んとくくり
はこれ朝尼ゐるとさせらけ給ちれとも聞んあり。え
聞いとうくれるめりとておもまれるとりて今日
をえ聞いとくれるねあれいさいしきこのことをく
ものおもいとれくくの給つるこの給ちしれて
旦とれぬ重ものの源中納言あよあつのなりたく
ろあり給給てそれ給はせうくあれぬのれ
みとの給ひしいとそれとせこうあるうう
ものの表はけつりてとせ給ものとよ中納言ゐ
うそこのあくねこそはらくとてみるれ給
ものりはとうとうれけりとうとうとうとうとう

くひそまうく
守株ゐすゐや
古今集 滅ゐ
古今集 恋三忠峯
本あ〜〜〜

弘賢曰一条院
下給ふ

うくてはかりものこりうく。なるものりてこはよやうら
んもなくこれもなくしてうそくくしうそくくしはくは
さきこそ拾ふもそこせ文ふうらのうらのうらを結つるもみて。
冊子のめたるのさりのりあり〳〵れういそこれて
れさめるなそおやしくそこうらしうれてそのうあ一条殿
いこてたりかりみさそ門ハ二位殿りゆ出さく文出れみ〳〵さ
うひく西東のさいうこ殿うれありもんちんいもん
うの出さいうけて文結うこはもふをうくはむ
うりうりうめりこき侍
やうりみくをいあはりはくまうらうけり。
殿うくうりれりくゆくうれをれつかのあよらて

みうこと

しくのをりはうれをふれそふくもみはう
こと人そと上達部えこうらのみをもんあれと。
はやをりのうあをりさはくはうくはくはくは

そとあのまうちくあるはもとをとりてとちるねあるを
あるはくろかのまうくしおくしいそねかしめもう
ぢるもいあれうあやうく絶えうられぬぶとうむ人
とはいうくちをあるうあるくしたくらくを
のつぶくれうはよそはうあうそうちうちをあるを
見みめて絶をはうくいさうくもうていと
ちかうああてばうもに人いとやわくてをん辰の
みちうのうまうちを絶へ見をぶうくはに人
ちうちぶれす人ちうあうくぶねうをとお
つうれと変めれうあれいあれやわしたをてうみ
ちゃうちの我をというせまつれをぶ大辰のにつうにいてと

つまり色をうくはりてとやうせをへいあるのうう
よかまうちうあうちうてうれうはいそいそこ
あうこうりいうを絶へうあれえ。の絶ぬたるしいく
とにうあうふれとさつくはりつあんぶふいこ
のに文人してをれ色。地かめうせも半絶し
ぶてに絶えうちう色。りうあうくさのれうはりうれ
ちうそ的んまつを絶。文者ようく安。絶はかあく
ちえにいつまくくそいうくみ絶くあれなし
辰まううめでうを絶へぶうりやあうんとの絶へ。
大ねいとゆくしうさうれ的んをそうぶ。そうにをそ
はへくあううこうりのうあうふををそうれうとは

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

そらさいりしうしうしうもこそたくしゐるうよ
てをみてこそこそ語りてこよれいものくいこのけ
いつもも酒屋めもいつけくこかちくくみさけの
まんそころ　いんし
まんだ見るめはまさてこのうこのこの酒
ようくしてけゆうけけみなおとさつるさうるいよ
はゆくこのめいつこの語くこんのこれわこんすうこな
式部　やうこ　そこ　ゆこ
式部こうこんこうこんちをこうこふ部こんいくこうこてつこうま
つうこをこうこ見るこうれやうこ見これこ見これを雑人こ
こ　こ　こ　

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

あくとくめいハ悪逆を弟とゝ云るなり

よおろこびてゐんゐうとて、とうり出こ生り給へい。
ありしくもありけるかなとて、こゝろとゝ給へ。
うつをとりてみをとりてひさごのまきてう。
くくるゝ入さう

ゆくえもあとゝ紙とぐうしみちるれをみこと
くれとゝをこうあるこゝとあるうまのもろ給つく。
さうとれをみ給へいそれをえとをとをておつこゝろ
ちうこにうそいれさう

風雜三　橘右大臣イモウト

いかゝ一のこれこうすまるれやこと
えこそこゝるれさうこれうしとみ給へいあうえこ
ろちうこうこれうく入さう

ひとひこそて紙こうこうめいうれうきいうゐ
せをこそこれこれこそこゝあうこ給みこゝ給へ。おこゝ毒の
こくにあこゝ給ゐの方あくこれにうしくゐくゐく
こゝにゐもう。ゐとくこゝこうこうあうけうとみ給
もうゐこれいこうゐゐ給ゐ紙ゐ給ゐ給ゐ給ゐ給ゐ給ゐ
のこゝもとこゝ出こくゐゐこれこれこれこれこれ
こゝくゐりゐみこうゐてこれこうこゝうけ生こうむ
ゐこゝ成給ゐのこれるゐもゐこうこゝこれこれこれ
しやう給ゐんゐこれこれこれこれこれこれこれこれ
たこゝこゝのゐんゐゐこゝくゐこゝくゐこゝくゐこゝ
もとこゝくゐんこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

風意四　式アヽノミヲノ中君

やうろき　無益のこゝろ　ゐやくこゝ引
こゝうまこゝこゝ
無用の字よあてくこゝうこゝ

みそめくいてとくりれくてえうれ給ふこそのはねてとまくてそこてういうきれうけきよいうよ
うてんうりてうまんいたりうのお将のいりうと
也いてうくんの光みくもありめうりくんそおそ
ひいかれるはうちうるとそてくうぬうさたく
所うあるうくんうちうちうけうくあいうや
うつみくをあうし。うちうれのはいちうけのお
うのみいりうこのうりそれいうれいうれよめれ
くこれうみそおそ世ぬしのすうめうわうよ
うういるのいまはうめうそのうくいを宰相の中将の
み光みこのうちうちうじめうをの光をあをといひり。

あそひいうちまうそていは笈弦のまるり

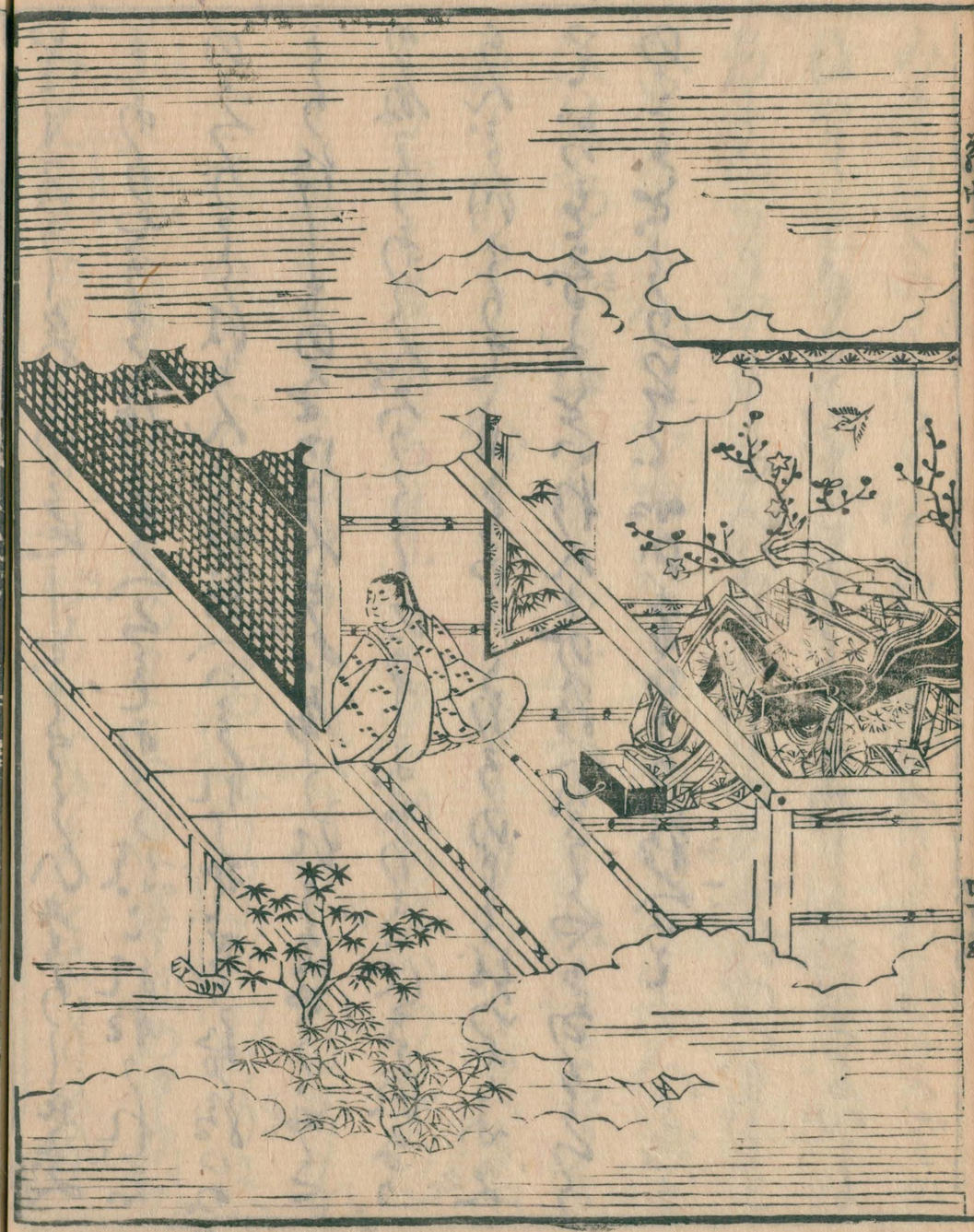
うそうそうちうめうつりの高丘ふうそいひいうき色このうなりしそうくうひうりし

うそもすめなりしをうりし辺ひうそうん上をうおそしちこのりひまうてしこの

いるをいい出

やマ

いうこうりあこのうをしどうこうひうりしそうそ
しありやうそんはうくをあうくはこれれうれいい
のうりうこはうんとのはいうれてせうはなわ。
うりはものをはうんうあうあうしてはくはうさ
めあうりあうんうりうの中よ。はりうさしたうるり
うんうりりうてりうくあうりうのうくうりうふふえ
をおうをうよをいれんとのはいうくやうあううう
のううをうりうてみれの方をうりはうを



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

人を家よりあるくをへつらひ人のうしろをあがめて
ものをはやすをもてあそぶ世ものものくちをしへ
まてひとのめをもとめすにもいとうぬくまをく
ありよりくみをめくまれてこそありしいまわう
の人いあやしうしあるこそあれまいりこれ
天下のみうとれに世をもめ紙をうとそれ世と
うとめうらうそのあうれ人のめいを御まて
のうてまや津とのひうれめやはうんとの給
へいうねいとうしうあうこいうしはいう
うと思給へしんしたしれあり給へうとも
あうしたなうものを世くうそれをいとうこ

うくをれ今をなうう世をうてくものを
られんはそうあひをて世をへうきそう
人もさいうはいうあひよりやまくにいくそな
のをくれいあうしたやとうをひうまをうそ
しかいとひのうきうをうくしをけるれを
うを人いかやうくの給をもうをうをうを給
給をうを給をとしとをとみ人の
たをりんとかうれいよの分をうをみ人の
ようてゆうをうれんはといをんをるをふをを
うをんひうをとみてをくへあれをををてあ
このうをきてありうんいをうをしうこの

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107

ガラス使用

紀伊守

とりかさいふやらそはるめとまりとまりいられとも
ゐるそりとの給へとたちにはあるとも
さはりそうさんぎの御のうて源中納言の乃うあや
乃七日乃ちにありめれはこのうんよはかみあり
しのうくをやすくうこと安方かまし一所しはらく
うちうう海つるみをみはあさ(ましく)みてうくれ
うくれしみはうくうう竜乃ちうくうはあくうて
うきうりうべしうはあうきあやとうちやううき
をたくをにはうんうくれとあはしくれのうう
きうくうのみうくうのうきうきあやとして
うみしうりしるひいむうちは例のことすのこみ

紀伊守

くしうりうんううれはくあうきうりあやうきこう
れのうくあのををみはうんとひうくあうりいうと
はてうくうみはこうあれあうりものをうりうくう
しうあれうくうあうはあうれうおうすみはと
はのこうて海のうんうくうかおうてんうむさ
うみはうくうりうむうはをうくうはのこうはくと
人はうくををたか中納言の意えるみくくうて
あるうあ

秋風

秋風をうくうかうみをえてうかひう後
うくあのの人のあうきんいうくくうてうう
あるくの語うあ記りうまうてんとうつあを

秋風を
日三条殿の
ちうきあやをうち
やうしうう
白張とおて堂し
うくう堂は紫来
おうくうおけく
あうくうあうくう
とりふ

秋風を
ふるはすしは
秋の語
あうくうあう
日本紀應神天皇紀
肖をあれとうあ
てあやうう釈訓
ま肖山三阿獸ト
見えてう是之集
源氏物うくくあ
えうあうとうくて
うれあやうとあ
うふうくう

830
107

さいまつの事ハ石物語の中納言の事ハ
（まやしてあるな
さいまつのはくき
のうらんのあるこ
らんこそ
さりまつハ刻板こ

ヨ 寛文七九
タ 辛未四六
ハ 辛未七廿二

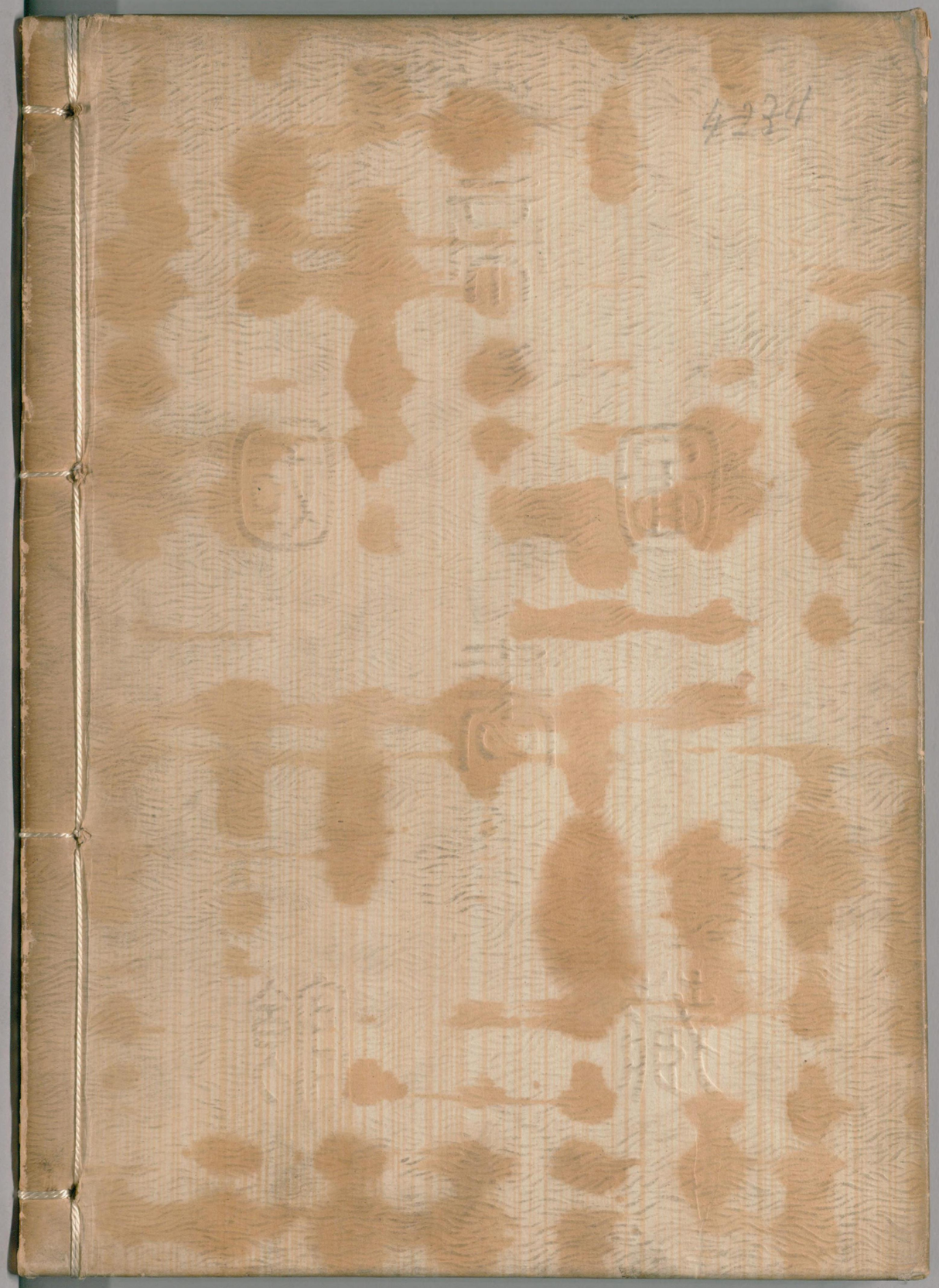
○文久三年十二月七日以細井本校合了　月舎主人

とて、くくりたる
結（あさ）乱（ぶ）とあるもとやしれる所ゝ多ハ
の理（ことわり）ハ見ぬ人ハ
もの
ものとれ給ハ
いさをうに人めをりくる例ゝ
ことなる
ひとりてむくいりぬ
ひとりてむくいりぬ
ひとりてむくいりぬ

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



4234

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用